

ゆたかの飛耳長目(第6回)要旨

日時	令和4年9月21日(水) 14時00分～
場所	龍門渚てらす
テーマ	明科の人口対策(移住定住・滞留)について
参加者	明科駅周辺まちづくり委員会 7人

●住宅地の供給

参加者 明科地域は非常に狭い地域で、魅力的な宅地や住宅の供給が乏しく、移住してきても家を建てるということが難しい。一方で、今は荒廃農地だけど、北アルプスも見えて、比較的駅や学校に近く、宅地としていい土地なのではとまっているところもあります。こういうところに住宅地が広がれば人口も少しずつ増えていくのではないかと考えます。また、市営住宅が老朽化してきて解体したところではありますが、せっかくの市の土地なので、宅地造成するなど活かしていけるのではないかと。また、空き家・空き店舗対策ということで、当委員会でもまちあるきの空き家・空き店舗見学会を定期的実施し、移住者とのマッチング会を実施しています。かなり成果があり、段々見学も多くなってきますし、住んでみたいと考えられている方が非常に増えてきています。しかし、所有者不明物件や物件を提供するのに消極的なオーナーさんがいて、なかなか紹介する物件が乏しい状況です。できれば市の力もお借りしてPR活動を行い、紹介物件を増加していただきたいと思っております。

市長 今ご説明あった通りだと思っていて、明科はどっちかという使える平地が少ないということが大きなネックになっています。市営住宅の跡地は私も知らなかったので確認してみます。そして、明科ばかりではなく、どこの地域にいても空き家がものすごくあって、おっしゃったように所有権の問題などが難しく苦戦しています。

移住定住推進課長 今年ちょうど所有者の方に意向調査を行っているのですが、回収率も低い状況で、それだけ皆さん関心がないのか、あるいは所有者の相続でもめているとか、あとは思い出があるので人には譲りたくないという意見が圧倒的に多い部分があります。中には利活用に向けて進めたいって方もいらっしゃるんで、市としてはそういった人達からまず積極的にお話をさせていただこうと思っています。

市長 とにかくまずは現状誰が所有しているか、その決定権が誰にあって、どうしたいか、といった確認をしないと勝手に動けないので、そういう所から取り組もうと考えています。ご存知のとおり、安曇野への移住希望者は結構多く、明科の魅力やまずPRするポイントをどこに持っていくかを練る必要があります。東京への近接性があるし、松本にも通えるし、安曇野市は広いように見えて車で動くと結構近いですし、特に不便はありません。

参加者 実は空き家の利活用希望者数はすごく増えています。なので、持っている方にどうい
うふうに考えていただくかが肝になってくると思います。

市 長 逆に言えば、宝がいっぱいあって使えるということですね。

参加者 そこは移住定住推進課長さんにも相談しながら、これから資料でいただけるって
いう段階になっています。

移住定住推進課長 外部提供していただけるっていう方たちを、今まとめています。ただ、なかな
か少ないところはあります。

市 長 そういう意味で、龍門測てらすがまさにそうなのですが、成功事例をみんなに見せる
というのが分かりやすい。成功事例として現実に見える場所を作ると、地権者の方や
所有者の方からも「こうやれば人が集まる」って分かりやすいですね。

参加者 できれば、この龍門測てらすのある河岸段丘沿いを一つのエリアとして集約すると効
果があると思います。

市 長 そうですね。1軒より2軒、3軒、それが連帯していくと、街並みっていうのもありますけ
ど、外から来た時に遊びに来て面白いまちになるんですよ。

●観光開発による知名度アップ

参加者 一番注目すべきところは長峰山山頂の開発。天平の森という施設があるのですが、な
かなか利用客が増えないので、できれば眺望の開けた一番いいところにグランピング
施設を作ってみたらと思います。これはもちろん民間を入れての開発になると思いますが、
今流行りのニーズに合ったグランピング施設があったら面白い。朝起きてみたら、
運がよければ雲海が見えたり、あと長峰山に沈む夕焼けが見えたりなんていうことも、
かなり集客力があるのではないかと思います。これにプラスして、眺望できるようなデ
ッキを兼ね備えて、さらに信州牛だとか、放牧豚だとか、ワサビ、信州サーモン、おそば、
おやきなどの名産物を提供できるような飲食スペースを設ける。地元の農産物を使っ
た有名シェフによるレストランを展開できれば、どんな田舎でも足を運んでくるという事
例もあるので、そういうのも面白いと思います。あとは今サウナのニーズが高いとい
うことなので、眺めの良いところにサウナや温浴施設を設けて、今言ったものを併設し
たような一つのレジャー施設があったらいい。

市 長 展望デッキいいですね。あと、飲食スペースは面白いと思います。グランピングは、や
っぱり最後はアクセスですね。現状では夏季だけになってしまうので。

参加者 山頂までのアクセス道路にすれ違いが困難な箇所があるため冬季も閉鎖ということな
ので、この辺の課題を解消できればいい。

市 長 道を広げるのは難しいけれど、過疎計画として取り組む事業の中で、すれ違いできる
箇所をいくつか設けようと思っています。急カーブのところをなるべく直線にして、繋い
だスペースを待避所のようにしたいと思っています。それはもう建設部と話しています。

参加者 天平の森に天体観測をする道具もありますから、例えば、天の川の撮り方を学べると
か、星雲の撮り方を学べるとか、体験型の宿泊施設ということをうたって、アウトドラス

ポーツができれば面白いと思います。今カヌーで明科を訪れる県外のお客さんがいるのですが、「宿泊する場所がない」「お金を落とす場所がない」ということを盛んに言われます。魅力的なビジネスホテルもありますが、できれば自然と親しめるような施設を設けるのもいいと思います。

市長 阿智村は昔から星空観光ってやっていて、ロープウエーで上がるため、ゴンドラが動いて、夕方の6時頃から8時頃までひっきりなしにお客さんの出入りがある。ただ、屋外なので雨降ったらダメで、特に席も無くてみんな寝っ転がって見えています。それはそれで人気があります。だから天体観測も面白いかも知れません。

参加者 あと1つ、松糸道路が事業化されて明科JCT、ICができるということで、この明科JCTから対岸に渡るまでにサービスエリアの設営を考えてほしい。ウィンタースポーツで海外からも県外からも来訪者が非常に多い白馬へのアクセス道路になるということで、この方たちに向けて安曇野の良さを発信する、長野県随一の道の駅を、ここ安曇野の地に作ったらどうかと思います。

市長 これは面積や土地の問題、そして道の駅に誰が農産物を入れてくれるかということが問題です。毎日、できれば四季を通じて農産物を納めることができないと無理なんです。地元で採れたものを供給するためには、きちんとした組合を作ってやっていかないとイケない。明科地域の組織にこだわらなくていいけれど、そういう組合がないと厳しい。

参加者 最後に、ハードを生かすソフト対策も大事かなと思っています。観光開発だとかハード面を作っても、やはりそれをPRするソフト面が充実していないとなかなかPRできない。ですので、CMだとかSNSメディアを使ったようなプロモーションも必要ではないかと思っていますので、併せてお願いします。

●生活の利便性向上

参加者 生活の利便性向上には、市内要所へのネットワークとして、定期的に周遊する2次交通が不足している。これからの高齢化社会を考えたときに、非常に住みにくいまちになってしまうので、何か維持していけるような2次交通手段はないかということを考えたい。それには、松本市のタウンスニーカーのように、駅、公共施設、教育施設、病院、ショッピングセンターの要所を定期的に周遊するような、交通手段が必要じゃないかと思っています。アイデアとしては、まず小型電気バスによる手段や低コストなゴルフカートタクシー、そして、市民だけではなく、逆にこのバスに乗るためにここに来てみたくなるような、キャラクターバスとか、レトロなボンネットバスとかはどうかと考えました。後はラッピングバスや、バス自体の車両にネーミングライツを示して、「何々バス」といった形で広告料を徴収して維持費用を補填してしながら維持する。こういったことが市民の足に繋がればいいと思います。

市長 この問題は、もうずいぶん前から、色んな話があります。少なくとも現時点の結論は、巡回ではなくて「あづみん」をもう少し使いやすくしようということで、11月から変えます。

アプリで簡単に呼べたり、時間の延長をしたり、改善しようとしていますので、これと併せて考えたいと思います。

●明科高校の存続

参加者 最近安曇野市の中でも統合再編する高校が出てきていて、やはり地域から高校がなくなってしまうと街全体に若者がいなくなり、活気がなくなり、過疎化が進む一つの要因になってしまっている。明科高校の生徒たちは、積極的に街のイベントにも参加してもらっていて、非常にいい生徒たちです。ただ高校を維持していくとなると、今ニーズがあるようなIT系のプログラミングやゲームクリエイターやベンチャービジネスパーソンを育成するカリキュラムを設けて、卒業後の進路も安心できるような高校作りということができればいいのではと思っています。いろんな専門課程を持っている高校としては例えば白馬高校の観光科や小諸高校の音楽科がある。明科の特色を生かして、学区外からも生徒が来ていただけるような高校を作れば維持していくことにも繋がるのではないかかと思い、アイデアを出してみました。

参加者 明科高校の校長先生や生徒会指導の先生方といろいろお話したのですが、明科高校は少数教育で、今まで学べなかったことを学び直すことにとても力を入れていて、結構いい進学率なんです。なので、専門科も考えてみてもいいですけども、現在のように子どもたちが学び直して人生を歩み直すことができる学校ということも大切だと思います。

市長 松本からも相当来ていますよね。

参加者 そうです。残念ながら地元明科から行く人が少ない。

市長 明科駅って安曇野市内では大糸線、篠ノ井線を含めて、乗り降り客が2番目に多い。これは明科高校の生徒たちが利用するからです。

参加者 明科いいまちつくろう会としても、当時から校長先生が学校だけでは学べないものをぜひ地域の中で学んでほしいということで取り組んできている中で、子どもたちの質も変わってきているということを実感します。ですので、普通校で残ってほしい。

市長 私も普通校で残した方がいいと思っています。あまりその時流に流されて専門課程にするより、普通科の枠は残した上で、その応用の中でやった方がいいと思います。明科高校は地域との密着性を高めていく必要があると思います。

参加者 これは一つのアイデアということで、逆にどんな形であれ、明科高校がこの地に根強く残っていただくことが一番です。よろしくお願いします。